

司式 ローレンス・スパーリンク宣教師
奏楽 五十嵐美代枝姉妹

前 奏

開 会 招 詞 マタイによる福音書 1 章 2 0 - 2 1 節

* 賛 美 歌 1 8 : 1 牧人ひつじを

まきびとひつじを守れるそのよい、たえなるみ歌は天よりひびきぬ。

喜びたたえよ、主イエスは生まれぬ。 アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 2 (詩編51編)

かみ 神よ、わたしを^{あわ}憐れんでください。おんいつく 御慈しみをもって。ふか おんあわ 深い御憐れみをもって、そむ つみ 背きの罪をぬぐい去^さってください。わたしの^{とが}咎をことごとく^{あら}洗い、^{つみ}罪から清めてください。わたしは^{とが}咎のうちに^う産み落^おとされ、^{はは}母がわたしを身ごもったときも、わたしは^{つみ}罪のうちにあったのです。

わたしを^{あら}洗ってください。雪よりも白くなるように。かみ 神よ、わたしの^{うち}内に^{こころ}清い心を^{そうぞう}創造し、^{あた}新しく^{たし}確かな^{れい}霊をさずけてください。すく よろこ ふたた 救いの喜びを再びわたしに^{あじ}味わわせ、^{じゆう}自由の^{れい}霊によって^{ささ}支えてください。しゆ 主よ、わたしの^{くちびる}唇を開いてください。この^{くち}口は、あなたの^{さんび}賛美を^{うた}歌います。しゆ 主イエス・^{みな}キリストの御名によって。アーメン。

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、^{なにも}何者をも^{かみ}神としてはならない。
2. あなたは自分のために^{ぞう}刻んだ^{つく}像を造ってはならない。それに^ふひれ伏してはならない。それに^{つか}仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの^{かみ}神、^{しゆ}主の名を、^なみだりに^{とな}唱えてはならない。主は、^なみ名を^みみだりに^{とな}唱える者を、^{もの}罰しないではおかない。
4. ^{あんそくにち}安息日をおぼえて、これを^{せい}聖とせよ。
5. あなたの^{ちち}父と^{はは}母を^{うやま}敬え。
6. あなたは^{ころ}殺してはならない。
7. あなたは^{かんいん}姦淫してはならない。
8. あなたは^{ぬす}盗んではならない。
9. あなたは^{りんじん}隣人について^{ぎしょう}偽証してはならない。
10. あなたは^{りんじん}隣人の^{いえ}家を^{むさぼ}むさぼってはならない。^{りんじん}隣人の^{つま}妻、^{りんじん}またすべて^{りんじん}隣人の^{もの}ものを^{むさぼ}むさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 2 3 : 1 諸人こそりて

もろひとこそりて むかえまつれ ひさしく待ちにし 主はきませり

主はきませり、主は、主は きませり アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 9 降 誕 節 第 三 主 日 受 肉

栄光えいこうの主しゅなる神かみさま、あなたをさんび賛美さんびします。

イエス・キリストたんじょうの誕生たんじょうにおいて、神かみの言葉ことばは肉にくとなってわたしたちのうち内にやど宿やどられました。

わたしたちが闇やみの支配しはいから愛あいする御子みこの支配しはい下かへ移うつされるために、神かみの御子みこが世よを照てらす光ひかりとなつてくださいましたことを、心こころから感謝かんしゃします。

わたしたちを暗闇くらやみの中なかから驚おどろくべき光ひかりの中なかへと招まねき入れてくださった、あなたちからの力ちからある御業みわざを、広ひろく伝えるつたことができますように。

献 金 (黒)教会活動 (赤)キリスト改革派日本伝道会 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

信 仰 告 白 式

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

聖 書 朗 読

ルカによる福音書2章8～38節(新約聖書103頁)

説 教・祈 禱

「念願をかなえる神」

ローレンス・スパーリンク宣教師

* 賛 美 歌 22:3 神の御子はこよいしも

神の御子はこよいしも ベツレヘムに生まれたもう。いざや友よ、

もろともに 急ぎ行きておがまずや、急ぎ行きておがまずや。 **アーメン**

* 主 の 祈 り 祈 禱 書 1

天てんにまします我われらの父ちちよ

願ねがわくは御名みなをあがめさせたまえ

御国みくにを来きたらせたまえ 御心みこころの天てんになるごとく 地ちにもなさせたまえ

我われらの日用にちようの糧かてを 今日きようも与あたえたまえ

我われらに罪つみを犯おかす者ものを我われらが許ゆるすごとく 我われらの罪つみをも許ゆるしたまえ

我われらを試こころみに会あわせず 悪あくより救すくい出したまえ

国くにと力ちからと栄さかえとは 限かぎりなく汝なんじのものなればなり **アーメン**。

* 頌 栄 20:3 いざ歌え、いざ祝え、

いざ歌え、いざ祝え、きよけきこのよい、

いと高きみどりごを、いざほめたたえよ。 **アーメン**

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告

門 脇 献 一 長 老

説教者：ローレンス・スパーリンク（キリスト改革派日本伝道会宣教師）

参照：ハイデルベルク信仰問答問 Q. & A. 29, 30, 34-36

中心的主張点：心からその救いを待ち望む人に主はその念願を必ず叶えてくださる。

聖書箇所：ルカによる福音書2章8-38節（一部を節略）

その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。「いと高きところには栄光、神にあれ、／地には平和、御心に適う人にあれ。」

天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださいましたその出来事を見ようではないか」と話し合った。そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。

さて、モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、両親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った。... そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。そして、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていた。シメオンが“霊”に導かれて神殿の境内に入って来たとき、両親は、幼子のために律法の規定どおりにいけにえを献げようとして、イエスを連れて来た。シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり／この僕を安らかに去らせてくださいます。わたしはこの目であなたの救いを見たからです。これは万民のために整えてくださった救いで、異邦人を照らす啓示の光、／あなたの民イスラエルの誉れです。」父と母は、幼子についてこのように言われたことに驚いていた。...

また、アシェル族のファヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。非常に年をとって、若いとき嫁いでから七年間夫と共に暮らしたが、夫に死に別れ、八十四歳になっていた。彼女は神殿を離れず、断食したり祈ったりして、夜も昼も神に仕えていたが、そのとき、近づいて来て神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話した。（ここまで、主のみことばです。）

序説： クリスマスはプレゼントを楽しむにすぎず、今年はプレゼントあるかな？

「クリスマス」という言葉を聞くと第一に思うことは何でしょうか。ケーキ？ KFCのご馳走？ イルミネーション？ 私の場合は「プレゼント」です。アメリカでは幼い子供をショッピングセン

ターに連れて行って、そこにいるサンタクロスのおじさんの膝に登って行って、今年の欲しいものを聞いてもらう習慣があります。子供はとにかくプレゼントがもらえることを何よりも楽しみにします。

でも、今年、これはダメですね。三密を守らなければなりませんね！ 考えてみれば、それで良いかもしれません。ものをすでにたくさん持ちすぎている私たちです。わがママがさらにひどくなるといけません。「欲しいもの」と言っても、それが自分にとってプラスになるかどうかわかりません。しかし、子供に欲しいものを確かめて、できるだけあげたいです。神様の愛のプレゼント、イエス様のお生まれになったことを記念して。今年も少しでもできるといいと思います。

私たちが欲しいもの、それは何でしょうか。何を願っているのでしょうか。「念願」と言えば、フィリピの信徒への手紙4章8節は次のように勧めています。「すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値すること」を思い、また望みなさいとなっています。つまり、愛と平和と正義、救いを願うことではないでしょうか。神様からのシャロムと祝福を願っています。つまり、神の国とその義です。

今日のみことばには、このようなことを心から願っていた人たちが登場します。彼らのことを調べて、確認してみましょう。

1、第一に登場するのは羊飼いたち

- イ、登場する者たちの共通点があるだろうか。
 - ロ、羊飼いについてどんなイメージを抱いているか。
 - ハ、羊飼いたちを慰める数々の聖書箇所がある。
- 二、救い主が生まれる！

第一に登場するのは羊飼いたちですが、その他に見たいのはシメオンというおじいさんとアンナという年寄りの婦人です。実は、彼らにある面白い共通点があります。これをみことばから確認しましょう。はっきりしてきます。もちろん、マリヤとヨセフ、天使たちも登場しますが、とりあえず、羊飼い、そしてお年よりの二人のことを調べましょう。

羊飼いについてどんなイメージを持っておられるのでしょうか。ニュージーランドのことを思うかもしれませんが、このベツレヘムあたりは荒野に近い状態です。羊たちは真っ白で可愛いものはありません。ルカ伝2章の8節をご確認ください。「その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。」あまり楽しそうな有り様ではありません。きつい仕事です。暗くなって、羊の群れから餌食にしようとする野獣もいます。羊は賢い動物ではありませんから、迷子になったり、怪我したり、病気になったりもします。つまり、羊飼いて、3Kの仕事です。と同時に、知的能力があまりかかりませんので、この仕事に従事しているのは 学歴もない、さげすまれる人です。経済的階級だとすれば、裕福でない方です。今日でも中東地方に行ってみれば、子供が羊飼いの仕事をしていることがわかります。こういうことですから、守っている羊はエルサレムの神殿で捧げ物となる羊であるにもかかわらず、辛い状態にあります、この羊飼いたち。

ですが、彼らにとって、すごい慰めとなる聖書箇所があります。有名なダビデ王も羊飼いの仕事をしていただけではないか！ ダビデ王は彼らの仲間です！ 神様もご自身を羊飼いに例えられています。「主は我が牧者なり」と、詩編23編が歌います。さらに、来るべきメシヤ、油注がれるキリストも羊飼いであると、イザヤ書40章11節、エゼキエル書34章11-12節が語ります。このような聖書箇所は彼らを激励するのです。世界に救いをもたらし、平和を打ち出してくださるのは羊飼いなる救い主ではないか！

そして突然ある日、真夜中に、予言が実現します。これを告げ知らせる天使が降ると、最初に恐ろしい光景ですが、「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」真っ先に知らされるのは、身分の低い、さげすまれる羊飼いたちです。彼らの大いなる牧者が生まれたというのです。待ちに待った彼らの憧れる、イスラエルを牧会するお方が来て、彼らがお会いできるように案内してくださいます。なんとという大きな特権でしょう。

こうして、彼らの念願が憐れみ深い主によって叶えるのです。彼らの状況が変わるわけではありませんが、病と苦しみがついに終わり、新しい日が始まりました。救い主がお生まれになりました。これなら、希望と喜びが湧いてきます。20節にある通りです。「羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりでだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。」

2、次に登場するのはシメオン。

イ、ルカの特徴：イエス様はあらゆる人の救い主。

ロ、長い一生涯は決して楽ではなかった。

ハ、心にあるシメオンの念願はなんだったか。

今日は時間の関係で十分にお話しすることができませんが、ここでこのルカによる福音書の一つの特徴を確認しましょう。人の苦しみを和らぐ仕事としてのお医者さんのルカです。また、初代教会の開拓に携わった使徒パウロの同行者として、イエス様の救いが人種階級と関係なく、あらゆる人に伝わっていくことを目の当たりにしています。イエス様の救いが、すべての国民、すべて苦しんでいる人に与えられることを丁寧に調べてまた記してくれます。えらい指導者や金持ちや律法の専門家よりは、羊飼いまいたい身分の低い人達を、「汚れている」と言われるらい病患者や、嫌われる徴税人や、売春婦、悪霊に取り憑かれた人たちをご自分の民としてくださいます。

ここまで、ルカはすでにエリザベトとゼカリヤ、マリヤとヨセフを紹介してくださっていますが、今度登場するのはシメオンというおじいさんです。25-26節は幾つかの情報を提供してくれます。「エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。そして、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていた。」実はここでお年寄りだったことが書いてありません。けれども、25節、29節から、もうすぐこの世を去る時が近づいていることがわかります。その長い生涯を生きてきたシメオンの人生はどんなものだったのでしょうか。ローマ軍の侵略がありました。神殿を汚す行為がありました。異邦人の支配者と妥協するヘロデ王とサドカイ派が政権を起こしています。神の民にとって恥をかぶる非常に辛い時代です。だからこそ、「イスラエルの慰められるのを待ち望」んでいるわけです。シメオンはこの世の楽しみや富にはあまり関心があります。年を重ねるとともにできた知恵があり、何が最も必要で大切であるかが見えてきています。それはメシヤの到来です。ローマ軍を追放するためではありません。シメオンが幼子イエス様を抱き上げると、イザヤ書を引用して、こう祈っています。「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり／この僕を安らかに去らせてくださいます。わたしはこの目であなたの救いを見たからです。これは万民のために整えてくださった救いで、異邦人を照らす啓示の光、／あなたの民イスラエルの誉れです。」神様は敵を撃ち殺すのではなく、罪の赦しと平和を宣言して、ギリシヤ人にも、ローマ人にも、また日本人にも救いを提供して下さるのです。これもまた、シメオンの念願でもあります。「主よ、いつまでですか」と嘆いていたこの人に、「今ですよ！」と突然、慰められるのでした。念願が叶えたのです。

3、最後に会うのはアンナという方です。

イ、どんな人物だったか。

ロ、日々をどう過ごしているか。

ハ、彼女の念願：エルサレムの救い。

アンナはどんな人物だったかについて、ルカは丁寧に教えてくれます。ギリシヤ語の文書の順序は日本語訳とは違いますね。名前の次にまず最初に「預言者だった」と教えてくれます。この時の預言者の務めとして、聖書を語り、神様を喜んでいただく道を教えることです。お父様の名前がファムエルといい、エノク書に出てくる天使と同じ名前で、「神のみ顔」という意味です。そして、アシェル族の出身である、と。アシェル族というのはイスラエル人の12部族の一つで、ヨシュアの時代にもともと嗣業の地としてフォネシア地方を分け与えられました、異邦人を追放することに成功しないで、紀元前8世紀にアッシリヤ軍によってイスラエル王国が滅亡した時に、いなくなった部族の一つだと言われています。でも、不思議なことに、ここに登場します。次の情報は、「非常に歳を召しておられた」と書いてあります。結婚しても子供が与えられないし、7年の結婚生活を送りましたが、夫に死なれ、その後、84年間寡婦として暮らしてきました。「84歳だった」という翻訳もできますが、最も自然な翻訳では、寡婦生活が84年間だった。なので、お年は100歳以上になっていたと思われれます。ですからルカは、「非常に歳を召しておられた」と書くのです。

さて、どんな日々を送っていたかという、毎日エルサレム神殿に来て、朝から夜まで絶え間なく断食して祈りを捧げ、体力が減っても情熱的に主のみこころを教え続けたのでした。非常に辛い目にあいましたが、神様に仕えることで慰めを求めています。女性ですから、男性たちが行けるころまで行けないままで、差別があっても、無視されがちな女性たちにみことばを分かち合い、主の民であり女性である、あるいは、子供連れて見える 礼拝者に主に仕える道を教えます。物乞いではありませんが、人の親切に頼り、施しに支えられて暮らしてるいでしょう。

シメオンと同じことを体験して、同じ気持ちになっていたと思われれます。おそらく、シメオンも知り合っているでしょう。心からの望み、いわゆる念願が同じです。主のしもべ、神様が約束された救い主が現れますようにと切に待ち望んでいます。ちょうどその時に、シメオンも賛美していたことを見て、預言者らしく、「救い主がおいでになった。ハレルヤ！」と周りの皆に語ったのです。

4、羊飼いたちとシメオンとアンナのもう一つの共通点があることに気づいたでしょう

か。 17節：「その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。」

シメオンはその場で賛美の歌を歌い、「私は今ここで神様の用意してくださった救い主を見た」と言います。そしてアンナは、「神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話した。」と。つまり、彼らは皆、救い主の情報を語り伝える「伝道者」になるのです。

決論： 私たちの恐れ、後悔、希望、念願をご存知の主は 救いを待ち望む私たちに 慰め、望み、喜び、目的を与え、イエス様が救い主であることを伝える特権を与えてくださいます。本当に神様を喜ぶ人の願いを叶えてくださるお方であることをここで確認することができました。身分の低いことがあっても、辛い一生を送って年とともに来る弱さがあっても、もう間もなく死に直面するときが来ても、主が救い主であることを理

解して感激してくださいます。とともに、イエス様が救い主であることを伝える、尊いお働きに当ててください。このことをクリスマスの季節にこそ意識したいです。そして、来ようとしている2021年にも、このお方に従い、あなたの心を支配する王としましょう。そうすれば、あなたもちょうど必要としている「良き羊飼い」となっていたら、あなたの念願も叶えさせていただけるに違いありません。